

品川区こども計画の策定に向けた区民意識調査

調査結果の概要(中間報告)

I 調査の概要

1 調査の目的

「(仮)品川区こども計画」の策定にあたり、子ども・若者、子育て当事者の状況やニーズをより的確に踏まえた実効性のある計画とするために、計画の対象となる子ども・若者や子育て当事者等の意見を幅広く聴取して反映させるため調査を実施しました。

2 調査対象

① 就学前児童保護者

品川区在住の小学校就学前児童の保護者 2,000 人

② 小学生保護者

品川区在住の小学生の子どもを持つ保護者 2,000 人

③ 中学生

品川区在住の中学校・義務教育学校（後期課程）に通学する中学生 1,000 人

④ 若者

品川区在住の高校生世代から 39 歳の若者 2,000 人

3 調査方法

郵送配布、郵送回収及びインターネット回答によるアンケート調査

4 調査時期

令和 6 年 6 月

5 回収状況

	配布数	有効回収数	有効回答率
① 就学前児童保護者	2,000	882	44.1%
② 小学生保護者	2,000	891	44.6%
③ 中学生	1,000	298	29.8%
④ 若者	2,000	483	24.2%

※インターネット回答率は、

①55.4% (489)、②56.7% (505)、③35.2% (105)、④47.0% (227) でした。

※前回調査（令和 4 年）は就学前児童保護者 7,000 人を対象に実施し、回収率は 53.9% でした。

II 調査結果の概要

結果概要は基本方針ごとに関連する設問を並べています。

なお、各設問の集計は無回答を除いて集計しています。

目次

基本方針1 子育て・親育ちを支援する.....	3
(1) 子育て(教育を含む)に関することの相談先の有無(相談先)【就学前児童保護者】.....	3
(2) オンライン相談の利用希望【就学前児童保護者】・【小学生保護者】.....	4
基本方針2 子ども・若者の健全な成長・学びを支援する.....	5
(1) 小学校就学後の放課後の過ごし方【就学前児童保護者】.....	5
(2) 放課後の過ごし方【小学生保護者】.....	6
(3) 放課後(夕方)や休日の過ごし方【中学生】.....	7
(4) 「子どもの権利条約」の認知度.....	9
基本方針3 子ども・若者の自立と社会参加を推進する.....	10
(1) 放課後(夕方)や休日の過ごし方【若者】.....	10
(2) 地域との関わり方【若者】.....	12
基本方針4 困難を抱える子ども・若者・家庭を支える地域の取り組みを推進する.....	13
(1) ストレスや生きづらさ【中学生】・【若者】.....	13
(2) 普段の外出状況【中学生】・【若者】.....	15
基本方針5 子ども・若者が居心地よく過ごすために充実した環境を整備する.....	16
(1) 3年前と比較して子育てをしやすいまちになったか【就学前児童保護者】・【小学生保護者】.....	16
(2) 最近の子育てや教育の問題【就学前児童保護者】・【小学生保護者】.....	17
(3) 区の子育て支援への取組や少子化対策として期待すること、重要なこと【小学生保護者】.....	18
(4) 子どもが地域の人と一緒に取り組むといいこと【小学生保護者】.....	19
その他調査結果.....	20
(1) 自身の幸福感.....	20
(2) 子どもの幸福感【就学前児童保護者】・【小学生保護者】.....	21

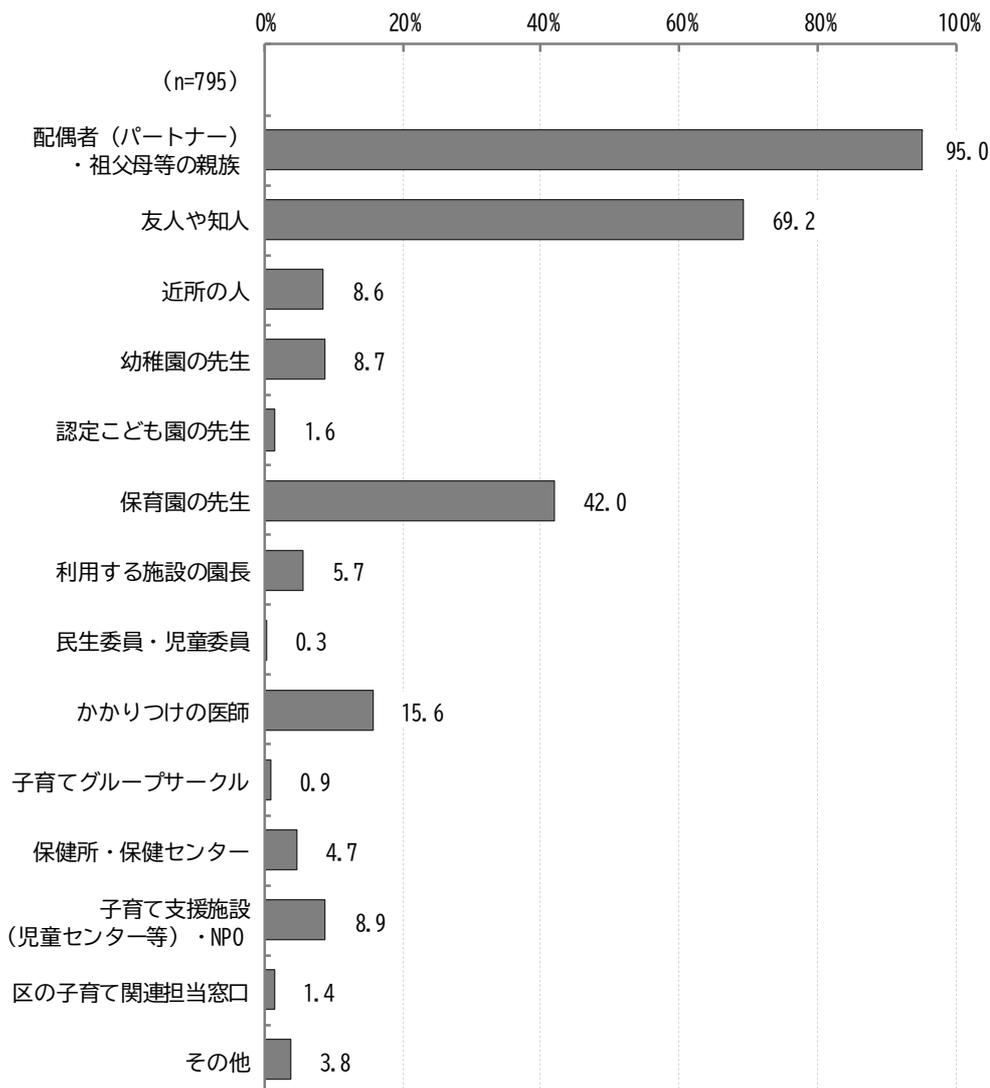
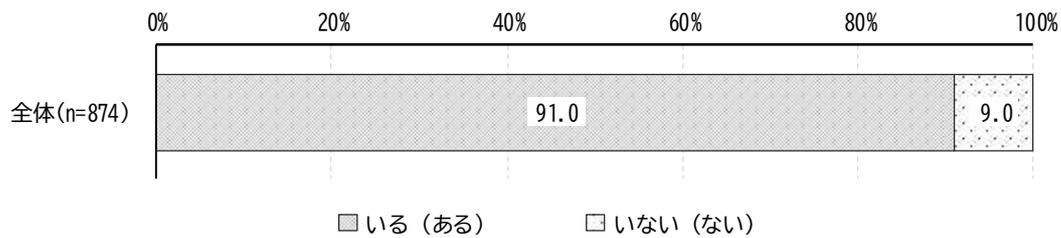
基本方針1 子育て・親育ちを支援する

(1) 子育て（教育を含む）に関することの相談先の有無（相談先）【就学前児童保護者】

子育て（教育を含む）について、気軽に相談できる人や場所の有無として、就学前児童保護者の9割が「いる（ある）」としています。

相談相手としては、「配偶者（パートナー）・祖父母等の親族」が9割を超えて最も多く、次いで「友人や知人」が約7割、「保育園の先生」が4割程度となっています。

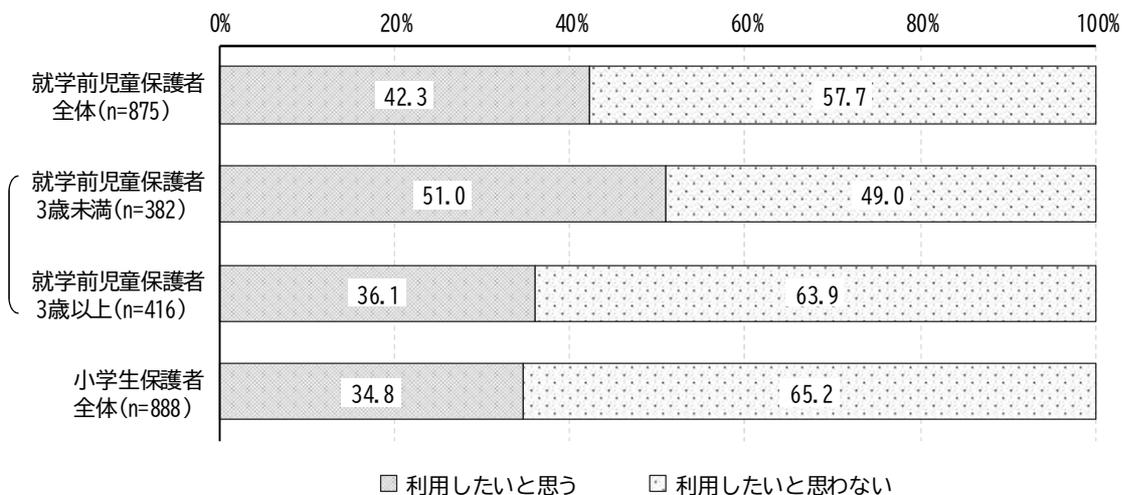
一方で、区の子育て支援施設や子育て関連窓口の利用が1割に満たないことから、区の子育て相談窓口等が子育て家庭の身近な相談先としてあまり利用されていない傾向がうかがえます。



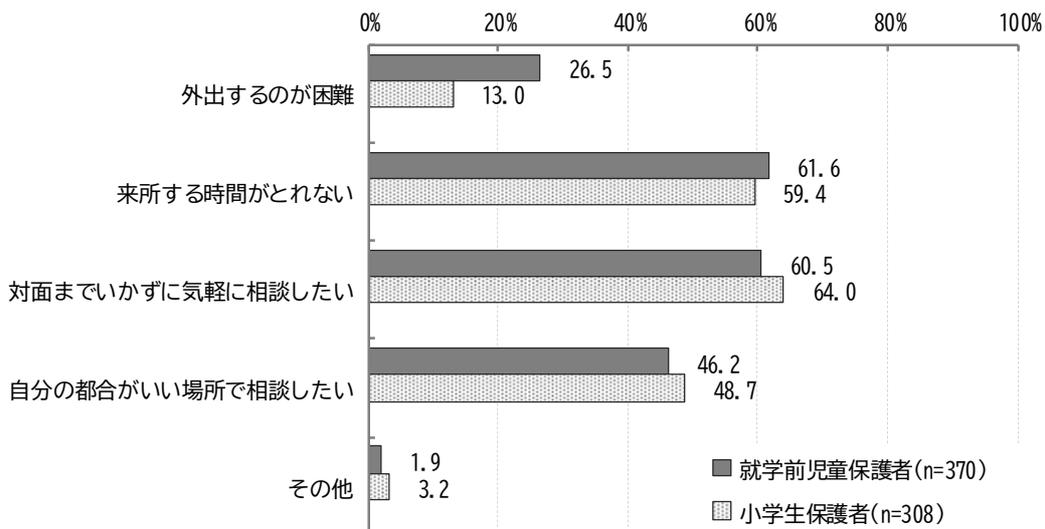
(2) オンライン相談の利用希望【就学前児童保護者】・【小学生保護者】

子育てに関するオンライン相談が可能な場合の利用希望として、就学前児童保護者の4割程度、小学生保護者の3割程度が「利用したいと思う」と回答しています。子どもの年齢別にみると、3歳以上の子どもをもつ保護者や小学生保護者と比較し、3歳未満の子どもをもつ保護者の利用希望が強いことから、育児の初期段階において特にオンライン相談のニーズが高いことが考えられます。

また、オンライン相談が必要な状況としては、「来所する時間がとれない」と「対面までいかずに気軽に相談したい」が6割程度と多く、次いで「自分の都合がいい場所で相談したい」が4割を超えていることから、時間や場所に縛られずに、便利に相談ができることを期待していることがうかがえます。



※「就学前児童保護者全体」は、年齢不明を含むため3歳未満と3歳以上の合計とnは一致しない。

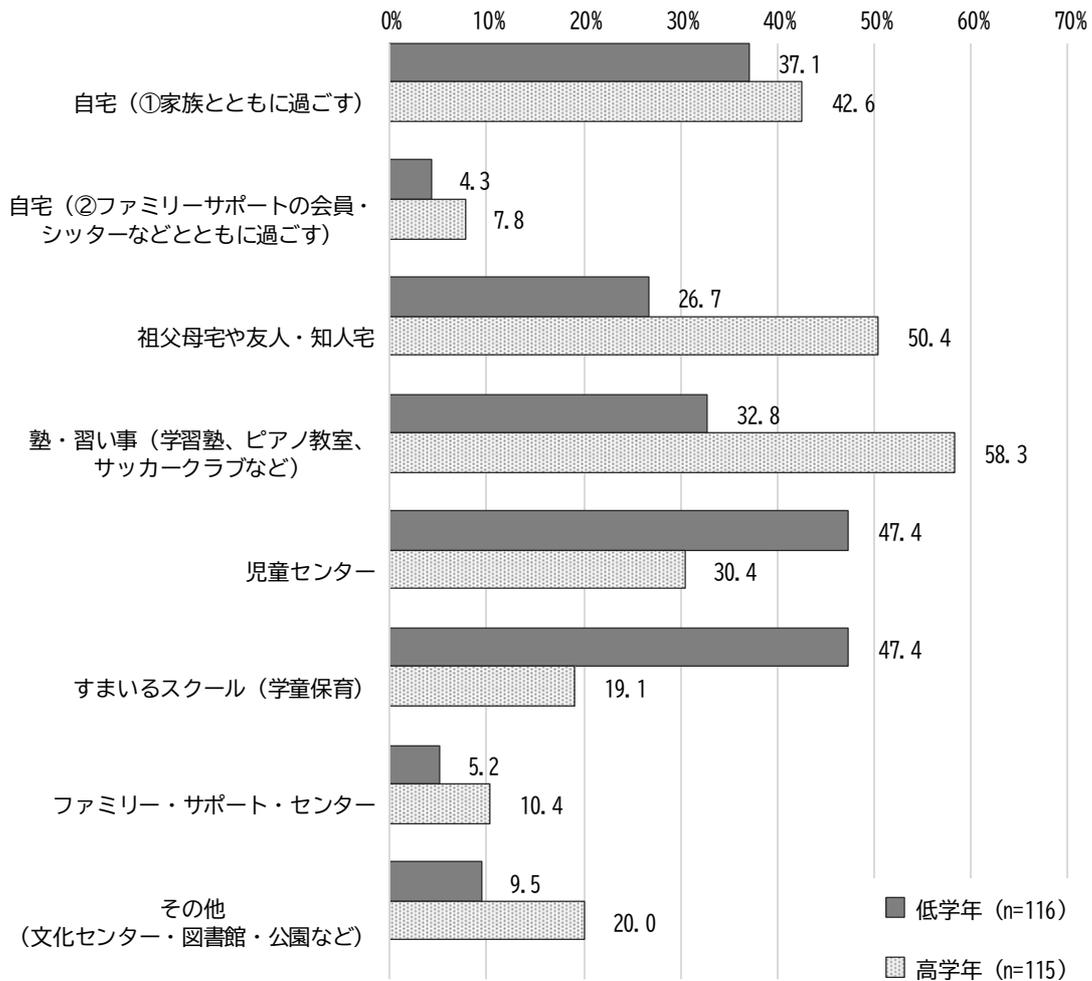


基本方針2 子ども・若者の健全な成長・学びを支援する

(1) 小学校就学後の放課後の過ごし方【就学前児童保護者】

① 放課後に過ごさせたい場所（低学年の時・高学年の時）

就学前児童保護者が放課後に過ごさせたい場所として、小学校低学年のうちには「児童センター」や「すまいるスクール（学童保育）」を希望し、小学校高学年では「祖父母宅や友人・知人宅」や「塾・習い事（学習塾、ピアノ教室、サッカークラブなど）」を希望しています。

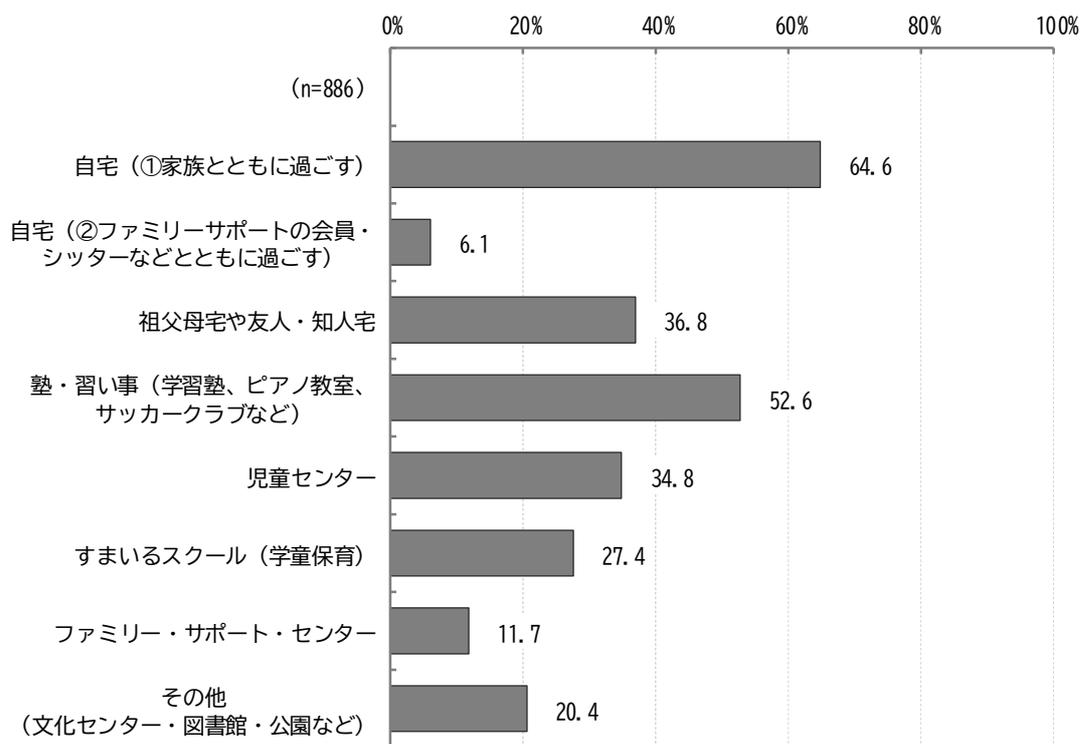


(2) 放課後の過ごし方【小学生保護者】

小学生保護者においては、放課後に過ごさせたい場所として、「自宅（①家族とともに過ごす）」と「塾・習い事（学習塾、ピアノ教室、サッカークラブなど）」が多いです。また、高学年になると、学力の強化や特技の習得が重要視される傾向にあります。

① 放課後に過ごさせたい場所

「自宅（①家族とともに過ごす）」が64.6%と最も多く、次いで「塾・習い事（学習塾、ピアノ教室、サッカークラブなど）」が52.6%でした。



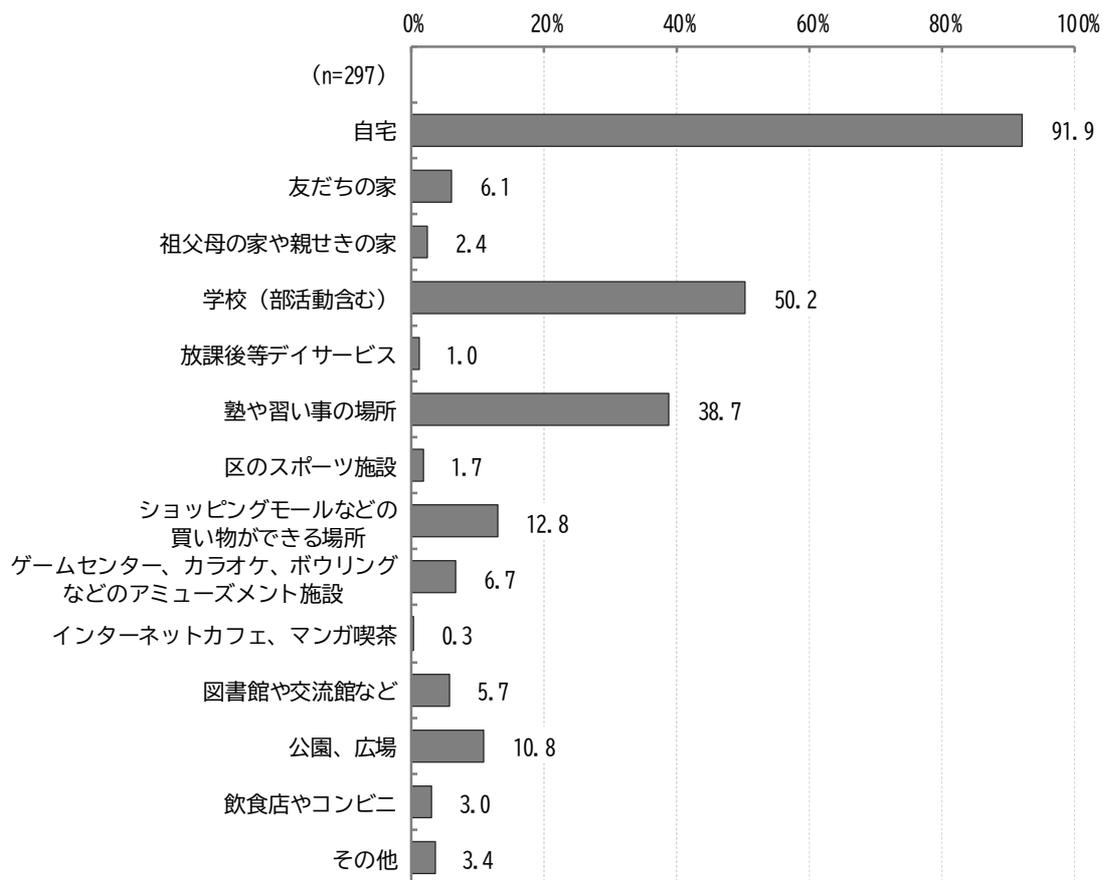
(3) 放課後（夕方）や休日の過ごし方【中学生】

中学生の放課後の居場所としては、「自宅」や「学校（部活動）」、「塾や習い事の場所」などが多いです。一方で、放課後にしたいこととして、運動や勉強と回答する中学生は2割弱程度と少なく、希望する過ごし方と実際に過ごしている場所が一致していない可能性があります。

また、休日は友達と交流することを望み、それができる場所を求めている傾向があります。

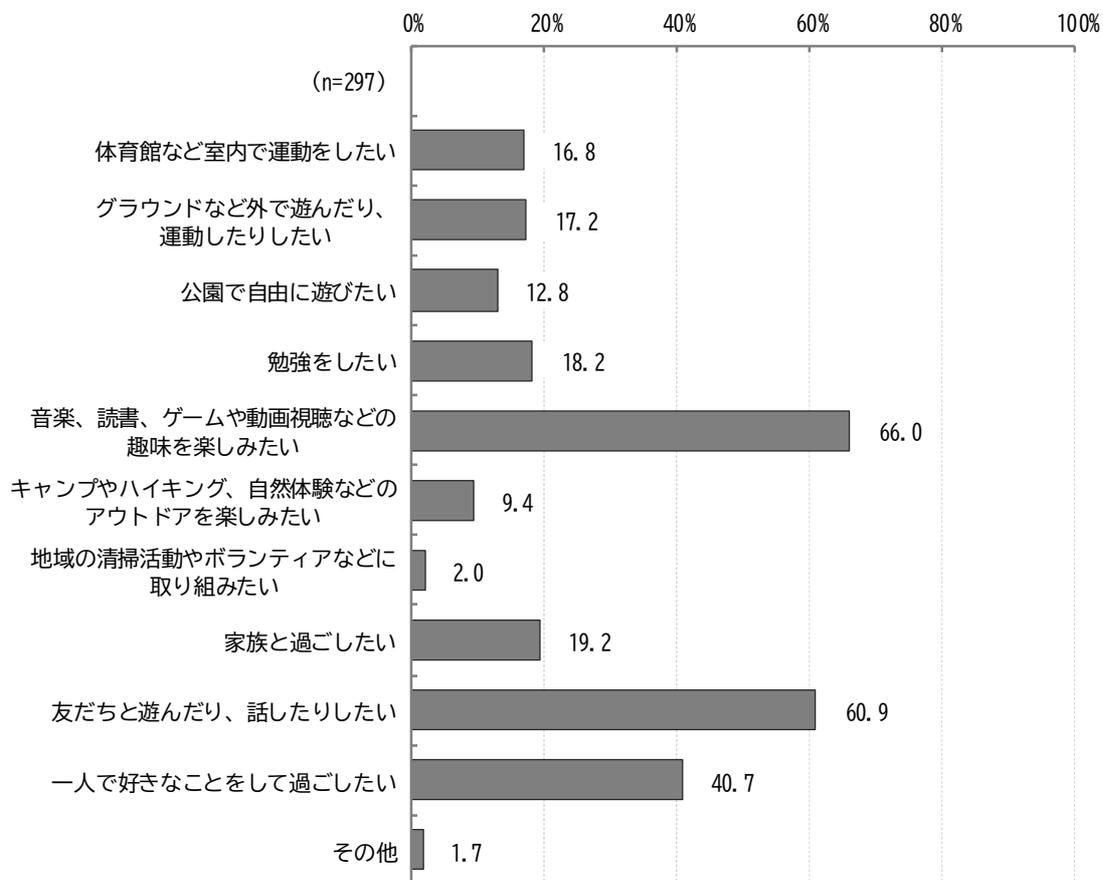
① 放課後（夕方）や休日の居場所

「自宅」が91.9%と最も多く、次いで「学校（部活動含む）」が52.6%、「塾や習い事の場所」が38.7%でした。



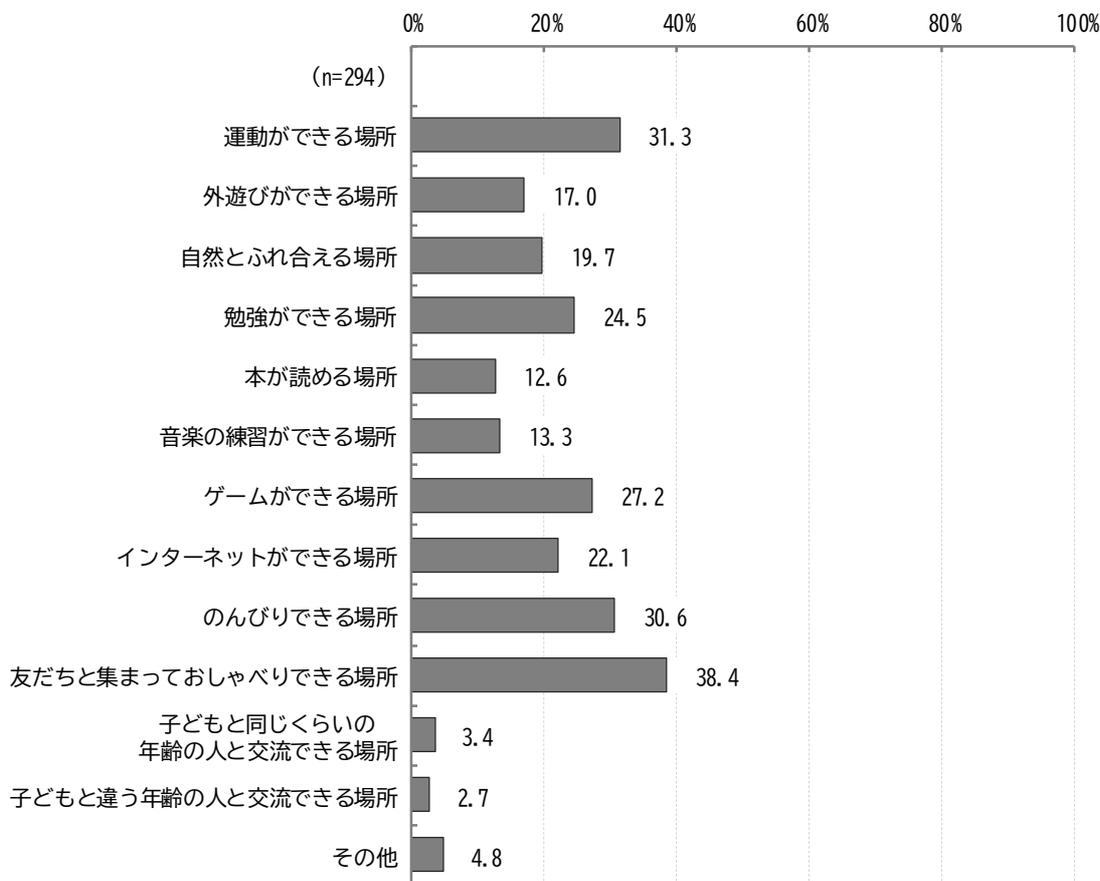
② 放課後（夕方）や休日にしたいこと

「音楽、読書、ゲームや動画視聴などの趣味を楽しみたい」が66.0%と最も多く、次いで「友だちと遊んだり、話したりしたい」が60.9%でした。



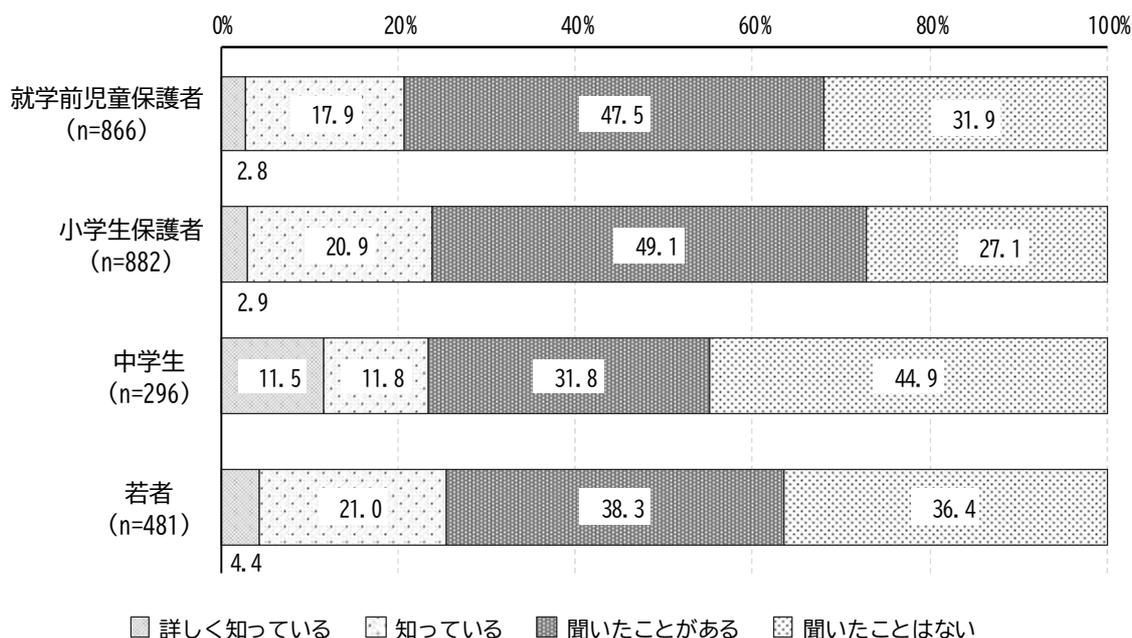
③ 放課後（夕方）や休日に過ごすためにあったらいい場所

「友だちと集まっておしゃべりできる場所」が38.4%と最も多く、次いで「運動ができる場所」が31.3%、「のんびりできる場所」が30.6%でした。



(4) 「子どもの権利条約」の認知度

いずれの対象においても、知っている（「詳しく知っている」と「知っている」の合計）の割合は2割程度でした。中学生の4割以上が「聞いたことがない」と回答しています。



基本方針3 子ども・若者の自立と社会参加を推進する

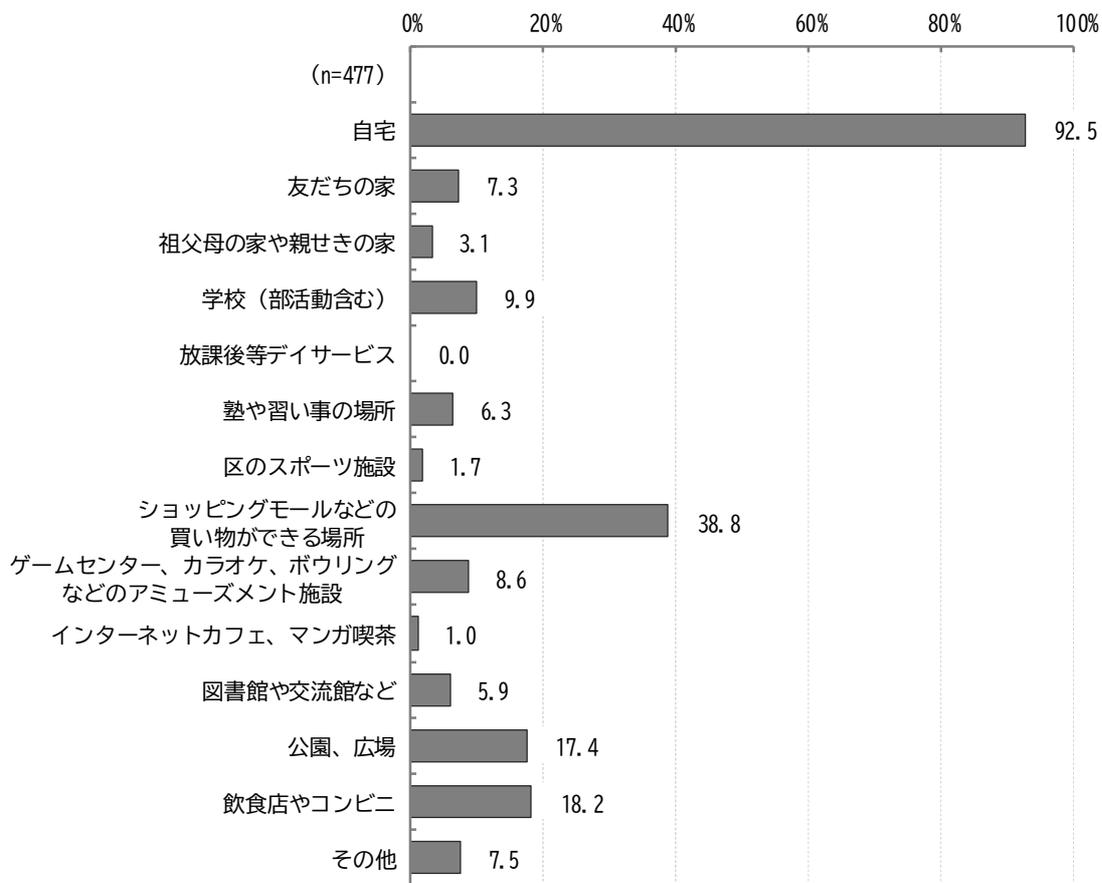
(1) 放課後（夕方）や休日の過ごし方【若者】

若者の放課後（夕方）や休日の過ごす場所は「自宅」が9割を超えています。また、希望する過ごし方としては、一人で趣味をすることや家族・友人と過ごしたいと思う多い一方で、身体を動かすことへの関心が低いことがうかがえます。

品川区に過ごしたいと思える場所が「ない」と回答する若者が4割を超えています。

① 放課後（夕方）や休日の居場所

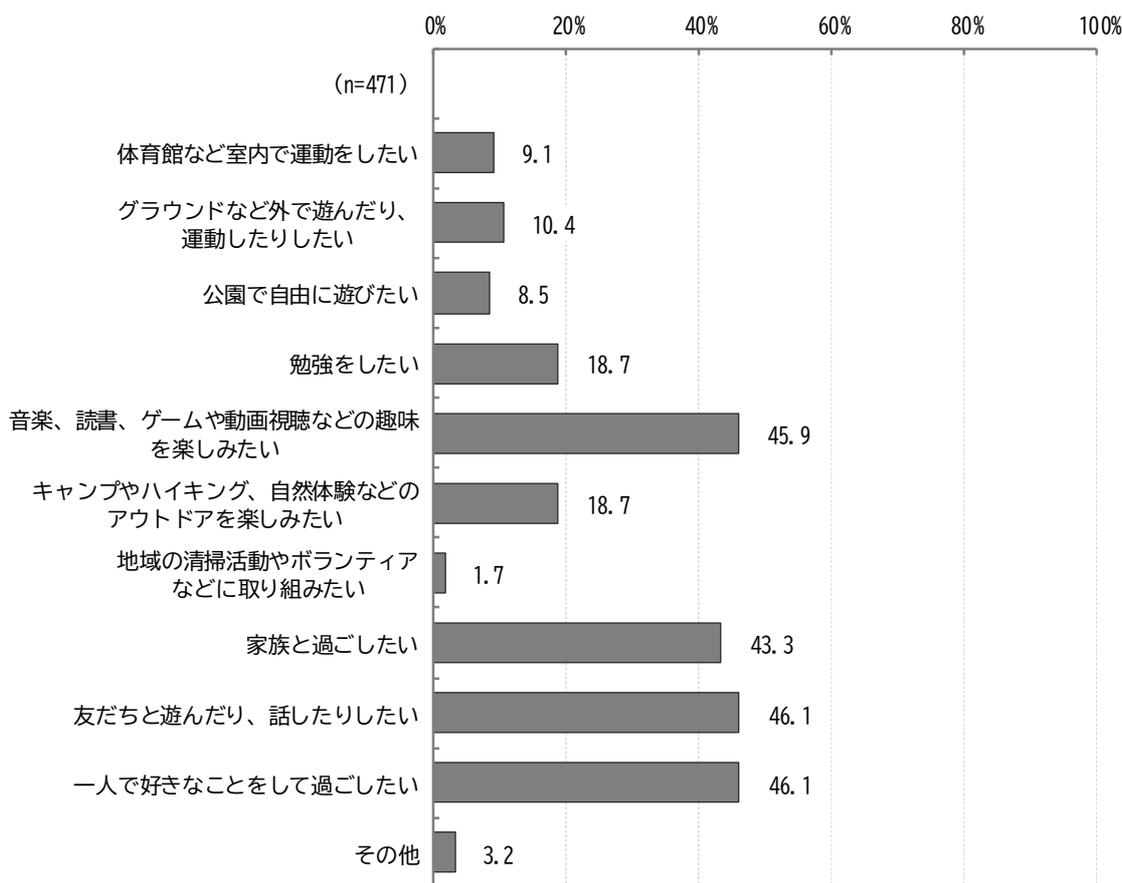
「自宅」が92.5%と最も多く、次いで「ショッピングモールなどの買い物ができる場所」が38.8%でした。



② 放課後（夕方）や休日にしたいこと

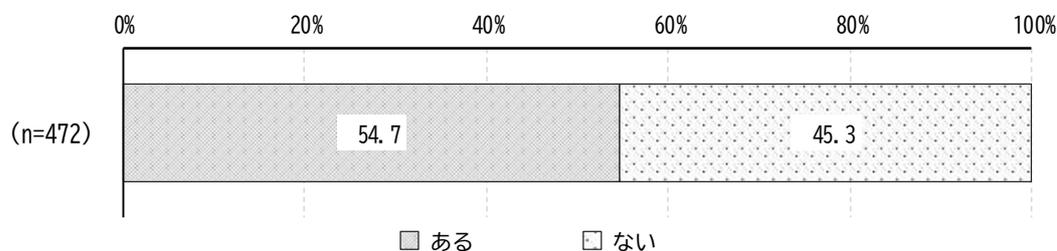
「友だちと遊んだり、話したりしたい」、「一人で好きなことをして過ごしたい」が46.1%と最も多く、次いで「音楽、読書、ゲームや動画視聴などの趣味を楽しみたい」が45.9%、「家族と過ごしたい」が43.3%でした。

一方で「体育館など室内で運動をしたい」や「グラウンドなど外で遊んだり、運動したりしたい」の回答が1割程度であることから、身体を動かすことへの関心が低いことがうかがえます。



③ 放課後（夕方）や休日に過ごしたい場所が品川区にあるか

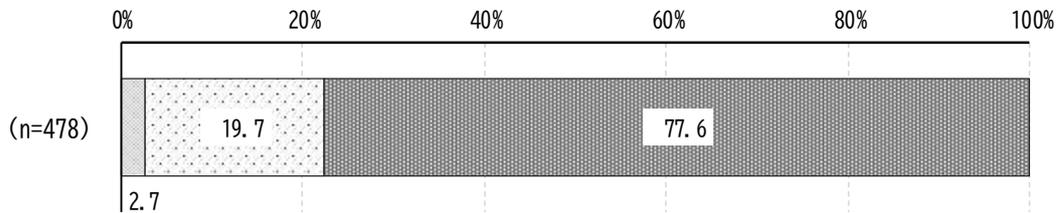
「ある」が54.7%、「ない」が45.3%となっています。



(2) 地域との関わり方【若者】

① 地域活動への参加

「ほとんど参加していない」が77.6%と最も多く、次いで「ときどき参加している」が19.7%でした。若者のおよそ8割が地域活動への参加をしていないことから、地域活動への関心が低いことがうかがえます。

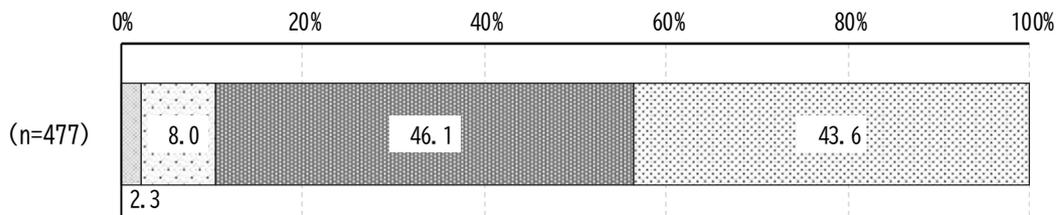


■ できるだけ多く参加している □ ときどき参加している ■ ほとんど参加していない

② 地域社会で他人を支援しているか

「現在は取り組んでいないが、将来的には取り組みたい」が46.1%と最も多く、次いで「現在は取り組んでおらず、今後も取り組むつもりはない」が43.6%でした。

取り組んでいる（「日常的に取り組んでいる」と「たまに取り組んでいる」の合計）は1割程度、現在取り組んでいない（「現在は取り組んでいないが、将来的には取り組みたい」と「現在は取り組んでおらず、今後も取り組むつもりはない」の合計）がおよそ9割となっています。



■ 日常的に取り組んでいる
□ たまに取り組んでいる
■ 現在は取り組んでいないが、将来的には取り組みたい
■ 現在は取り組んでおらず、今後も取り組むつもりはない

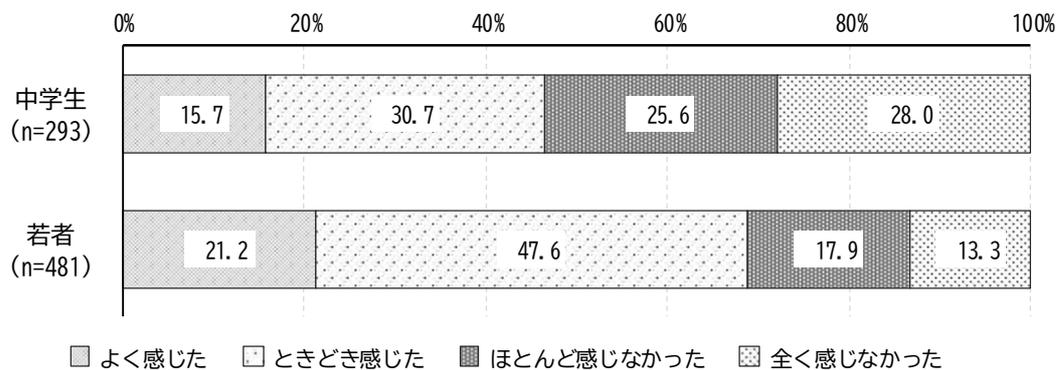
基本方針4 困難を抱える子ども・若者・家庭を支える地域の取り組みを推進する

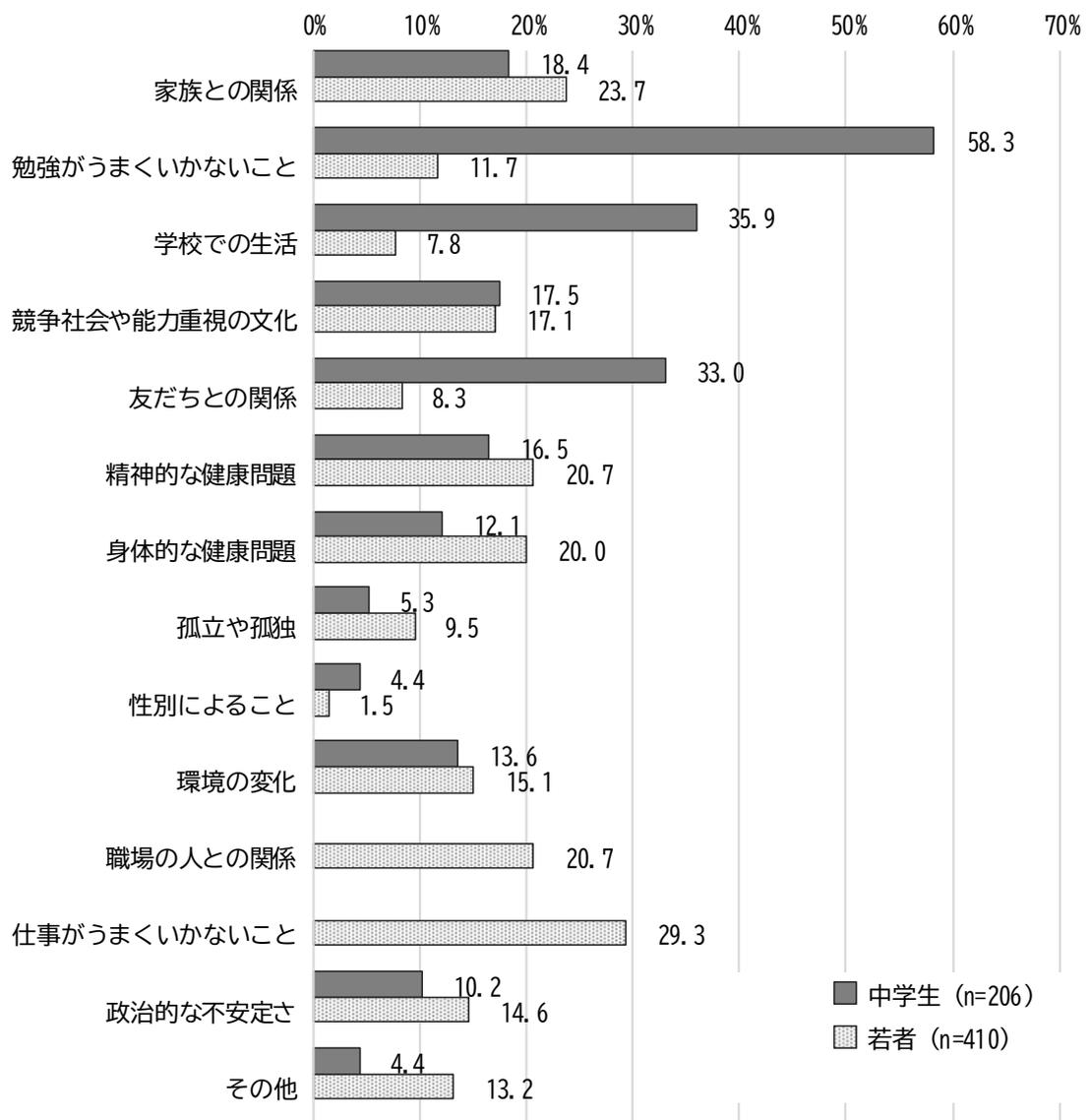
(1) ストレスや生きづらさ【中学生】・【若者】

ストレスや生きづらさを感じた（「よく感じた」と「ときどき感じた」の合計）と答えた中学生は46.4%、若者は68.8%でした。中学生と比較すると、若者のほうが高い割合でストレスや生きづらさを感じていることがうかがえます。

ストレスや生きづらさを感じた理由として、中学生では「勉強がうまくいかないこと」が58.3%と最も多く、突出しています。

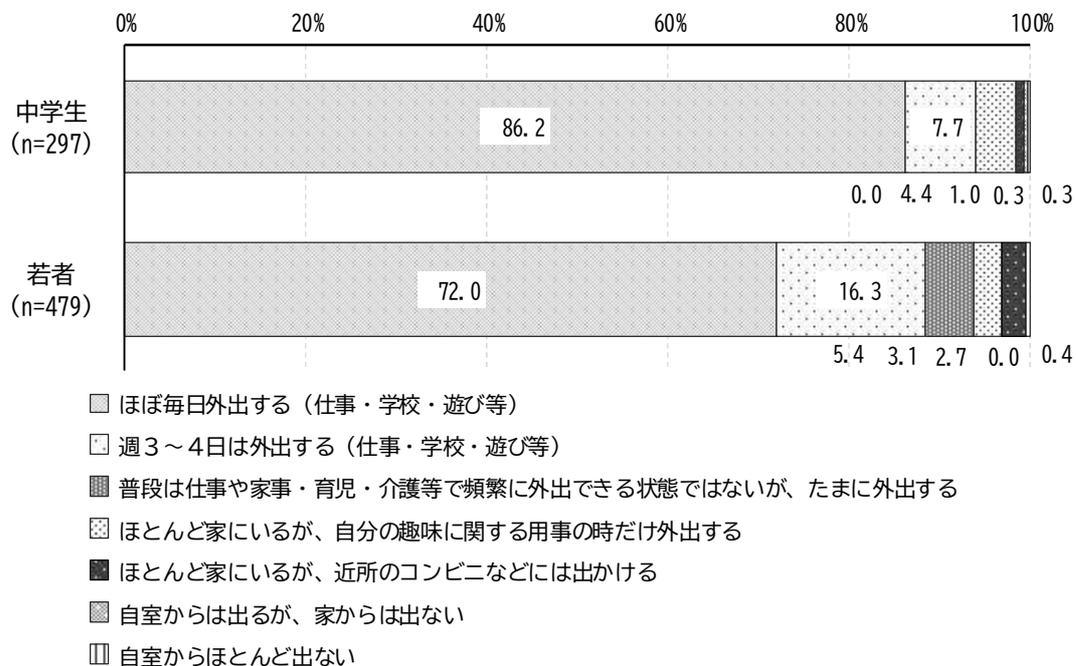
中学生は勉強や学校生活、友だちとの関係などの学業や友人関係が多く、若者は仕事や家族、健康など、ストレス要因が複雑で多様化していることがうかがえます。





(2) 普段の外出状況【中学生】・【若者】

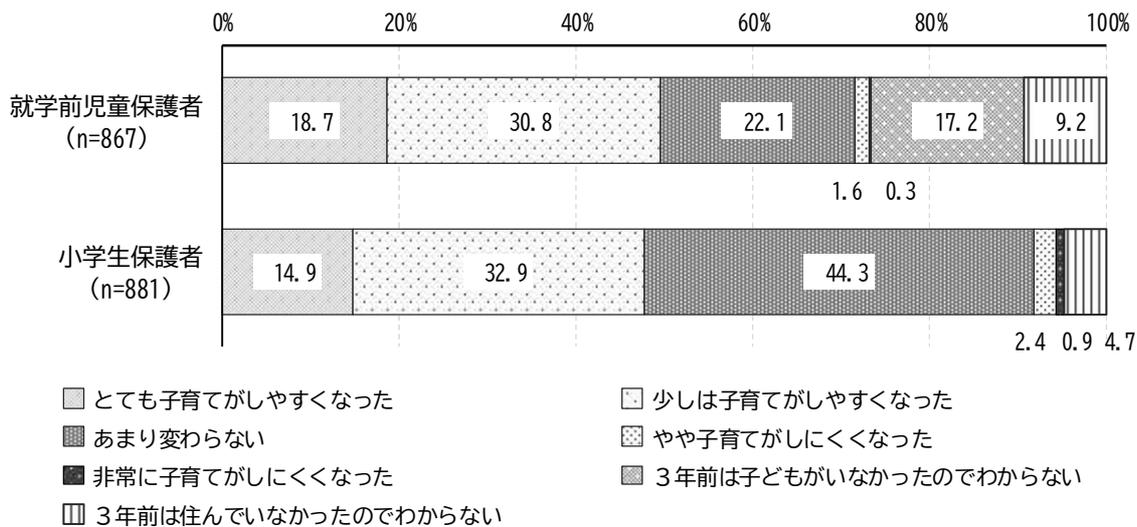
中学生と若者のいずれにおいても「ほぼ毎日外出する」が最も多く（中学生 86.2%、若者 72.0%）、次いで「週3～4日は外出する」（中学生 72.0%、若者 16.3%）となっています。中学生と比較すると、若者のほうが外出頻度は低いことがうかがえます。



基本方針5 子ども・若者が居心地よく過ごすために充実した環境を整備する

(1) 3年前と比較して子育てをしやすいまちになったか【就学前児童保護者】・【小学生保護者】

3年前と比較して子育てがしやすくなった（「とても子育てがしやすくなった」と「少しは子育てがしやすくなった」の合計）と答えた保護者の割合は、就学前児童保護者は49.5%、小学生保護者では47.8%でした。およそ半数の保護者が子育てしやすくなったと感じています。子育てがしにくくなった（「やや子育てがしにくくなった」と「非常に子育てがしにくくなった」の合計）の回答はほぼありませんでした。

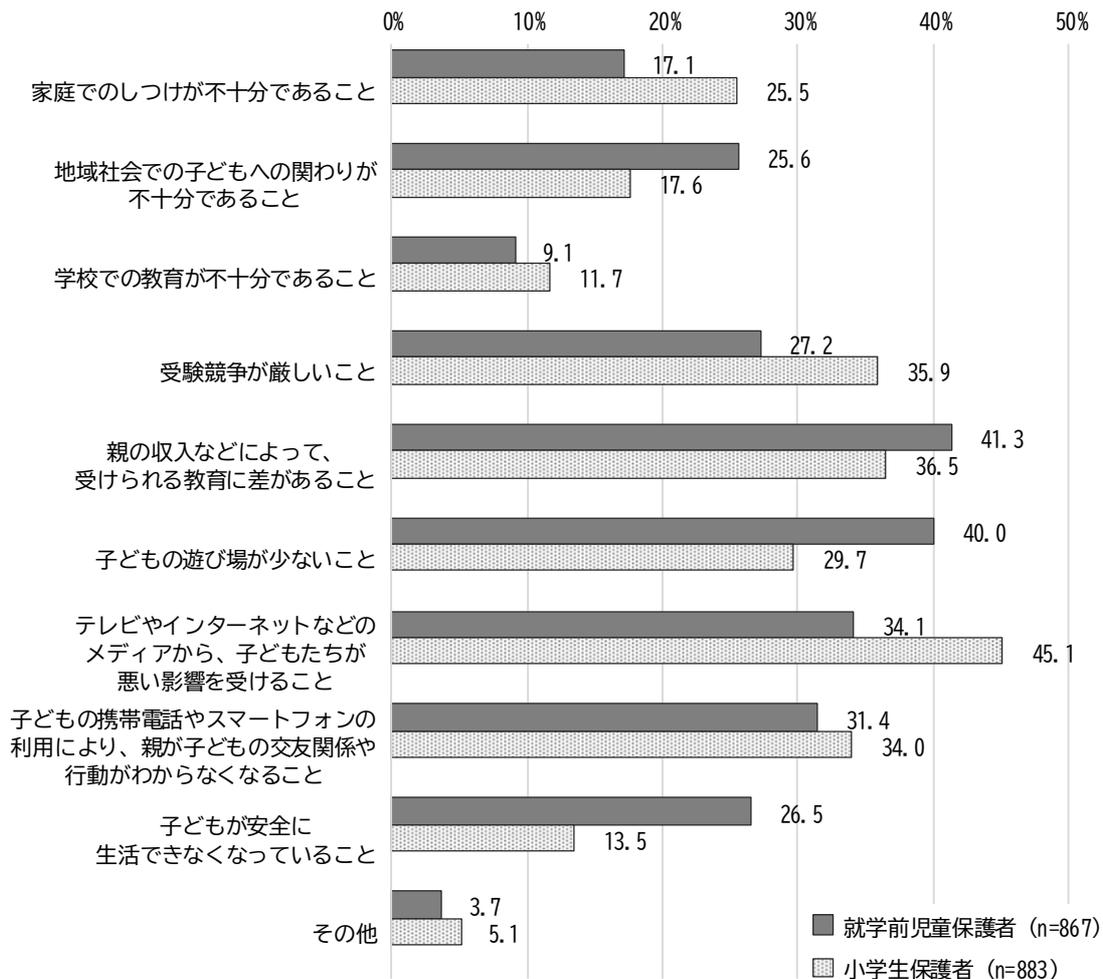


(2) 最近の子育てや教育の問題【就学前児童保護者】・【小学生保護者】

就学前児童保護者と小学生保護者のいずれにおいても「親の収入などによって受けられる教育に差があること」と「子どもの携帯電話やスマートフォンの利用により、親が子どもの交友関係や行動がわからなくなること」の割合が多くなっています。

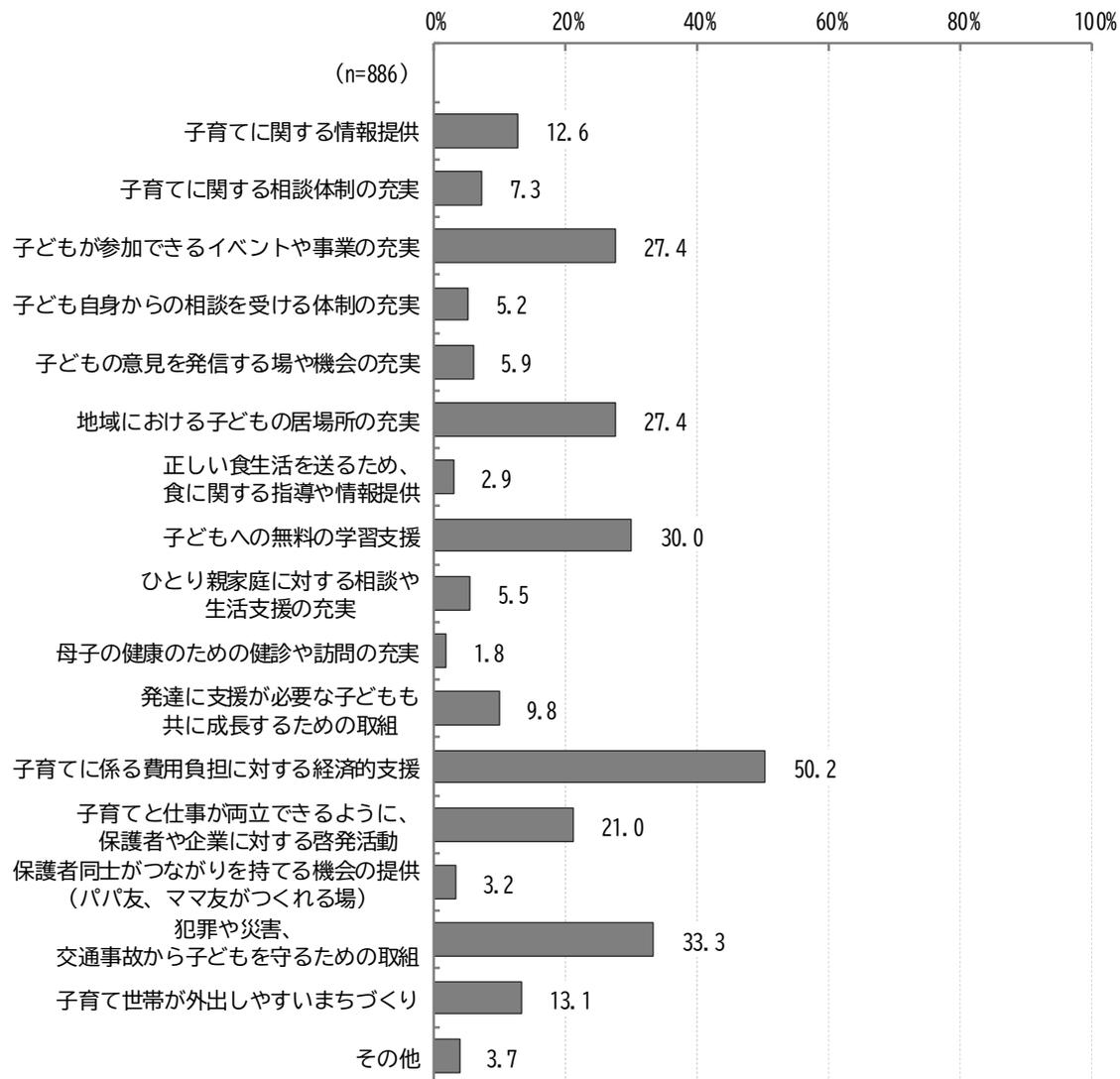
就学前児童保護者は教育格差や遊び場の不足など発達段階に関連した問題を重視しており、小学生児童保護者は受験競争やメディアの利用を問題視しています。

地域とのつながりや地域の安全性に対する関心については、小学生児童保護者と比較して、就学前児童保護者が高いことがうかがえます。



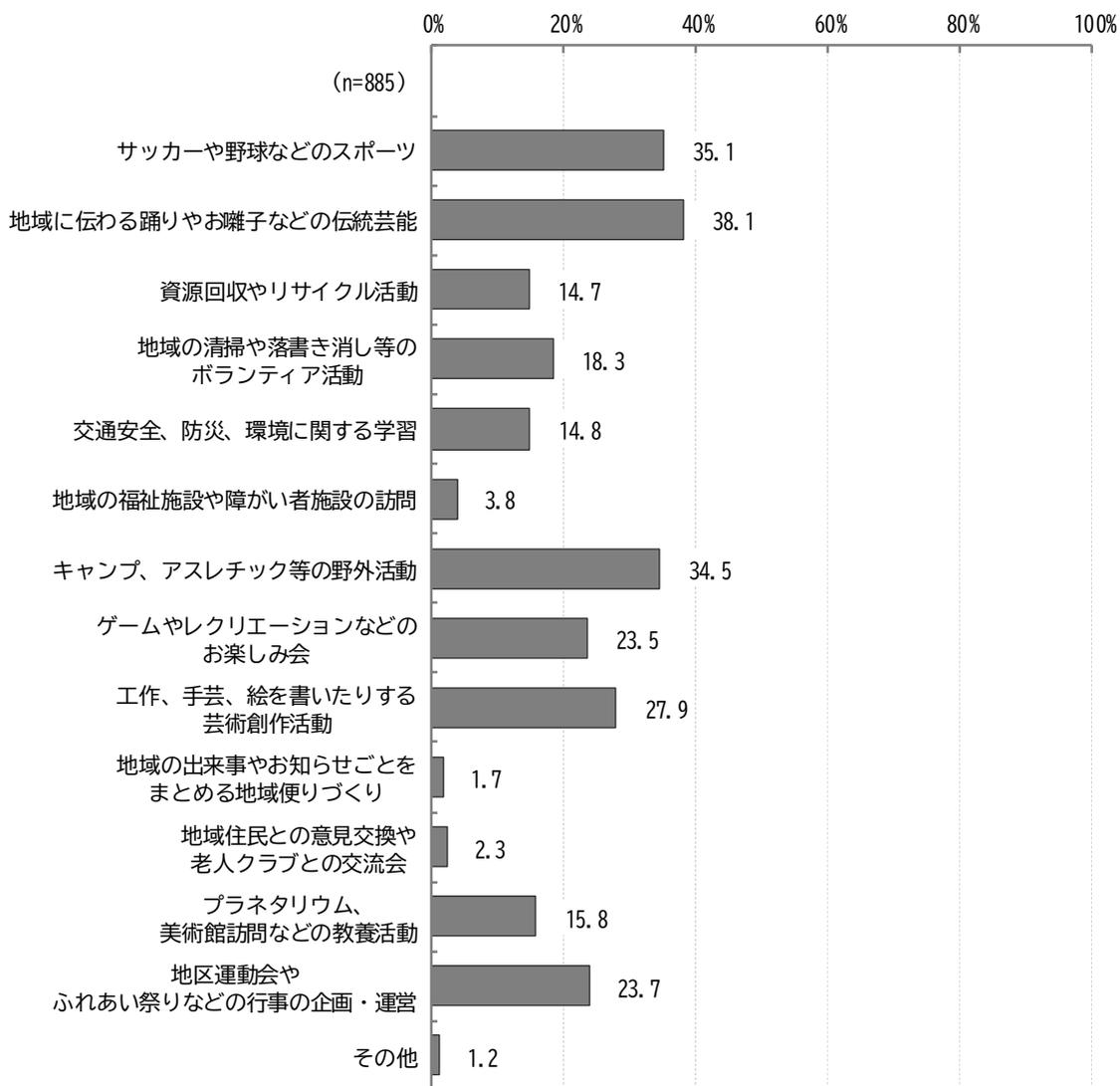
(3) 区の子育て支援への取組や少子化対策として期待すること、重要なこと【小学生保護者】

「子育てに係る費用負担に対する経済的支援」が50.2%と最も多く、次いで「犯罪や災害、交通事故から子どもを守るための取組」が33.3%でした。また、「子どもへの無料の学習支援」「子どもが参加できるイベントや事業の充実」「地域における子どもの居場所の充実」なども回答が多いことから、子育てにおける経済的な負担軽減への期待と、子どもたちの成長環境について関心が高いことがうかがえます。



(4) 子どもが地域の人と一緒に取り組むといいこと【小学生保護者】

「地域に伝わる踊りやお囃子などの伝統芸能」が38.1%と最も多く、次いで「サッカーや野球などのスポーツ」が35.1%、「キャンプ、アスレチック等の野外活動」が34.5%でした。伝統芸能やスポーツ、野外活動などの体験型の活動を重視する傾向がうかがえます。



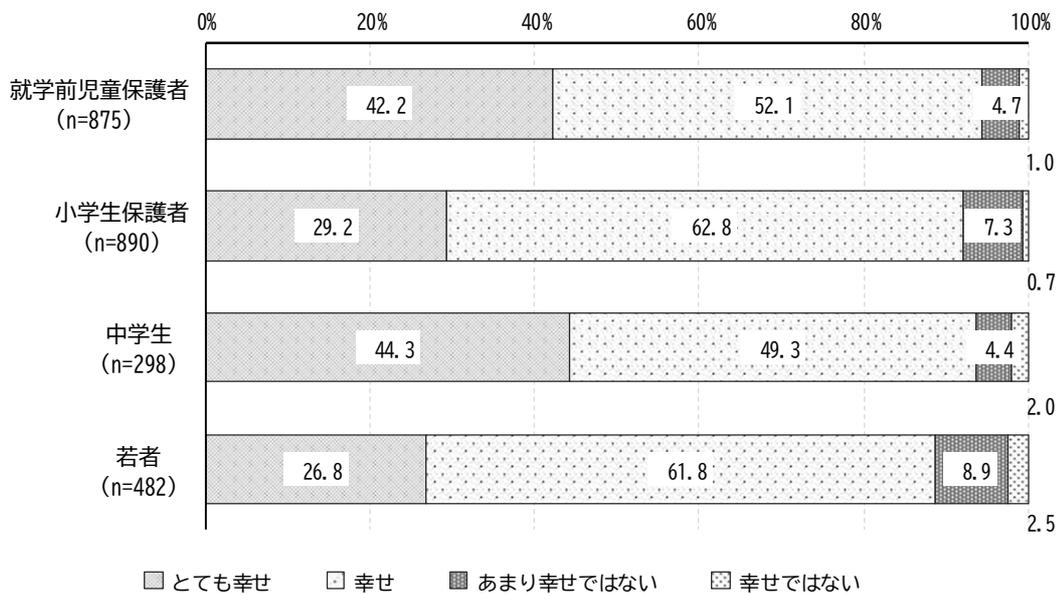
その他調査結果

(1) 自身の幸福感

現在および5年後の幸福感については、幸せである（幸せであると思う）と答えた割合は9割程度でした。現在と5年後で比較すると、いずれの対象においても、5年後に幸せではないと思う（「あまり幸せではない」と「幸せではない」の合計）の回答が微増していることから、将来的に幸福感が低下する可能性があると感じている人がいることがうかがえます。

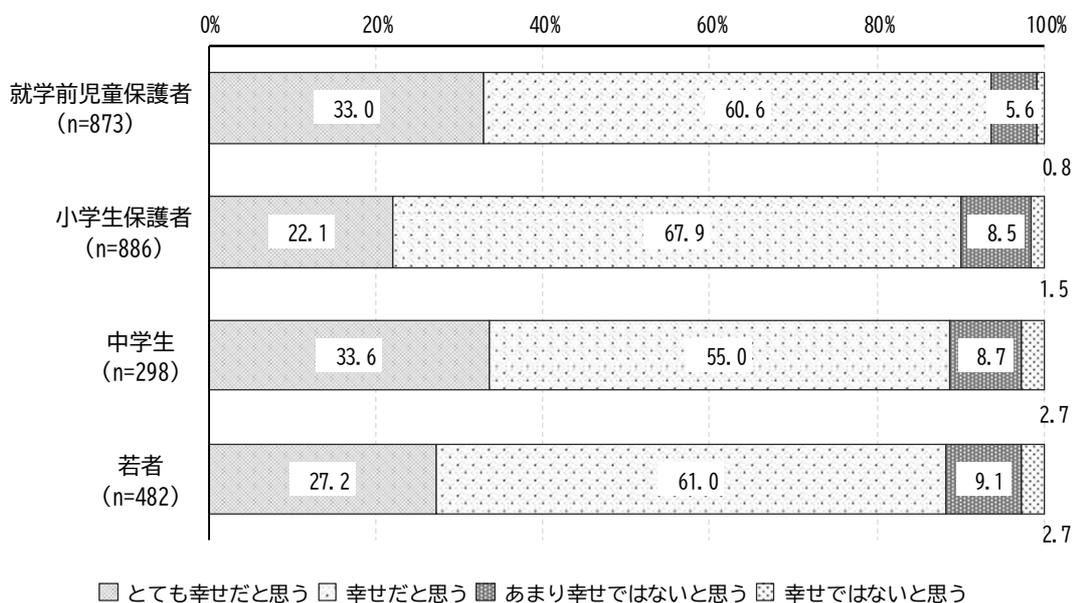
① 現在の幸福感

現在、幸せである（「とても幸せ」と「幸せ」の合計）と答えた割合は、いずれの対象においても9割程度となっています。



② 5年後の幸福感

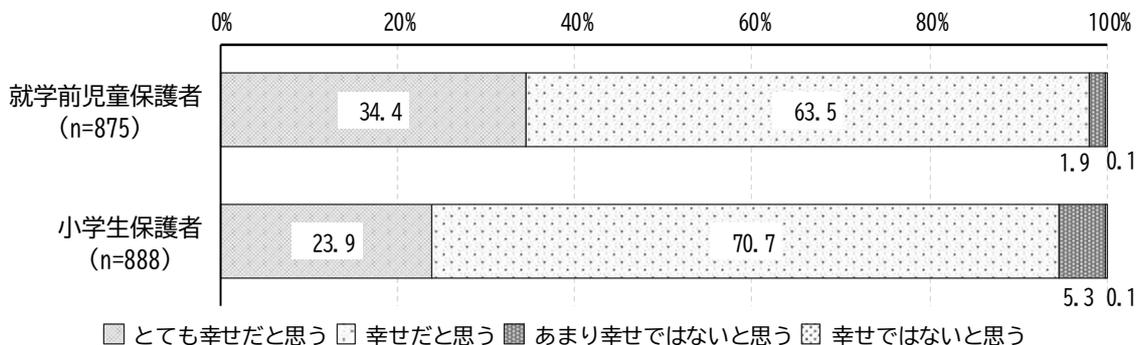
5年後、幸せであると思う（「とても幸せだと思う」と「幸せだと思う」の合計）と答えた割合は、いずれの対象においても9割程度となっています。



(2) 子どもの幸福感【就学前児童保護者】・【小学生保護者】

① 子どもの現在の幸福感

現在、子どもは幸せであると思う（「とても幸せだと思う」と「幸せだと思う」の合計）と答えた割合は、いずれの対象においても9割を超えています。



② 子どもの5年後の幸福感

5年後、子どもは幸せであると思う（「とても幸せだと思う」と「幸せだと思う」の合計）と答えた割合は、いずれの対象においても9割程度となっています。

